

だい きやまとし たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい ぎろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第18回会議録(要約)

にちじ ねん がつ か ど
日時: 2017年12月9日(土)14:00~17:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかい ぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いん いとうもとみ いのみさと くするみこ しやうじ ふかわたかつね やまとし
出席: 委員(伊藤素美、猪野美里、楠瑠美子、東海林まりえ、府川貴恒) / 大和市
こくさい だんじよきやうどうさんかく か はしもと ふじかわ こうえきざいだんほうじんやまと し こくさい かきょうかい さか
国際・男女共同参画課(橋本、藤川) / 公益財団法人大和市国際化協会(酒
い たなか こにし いしかわ いじやう めい
井、田中、小西、石川) 以上 11名

けっせき いん いしま しらとりせつろう せ やま り たの いさい
欠席: 委員(石間フロルデリサ、ウプレティ マトリカ、白鳥節郎、瀬谷麻里、田野井咲
な けいしやうりやく
奈、ハゲイ パトリシア)(敬称略)

ほうこくしよがいよう
1 報告書概要について

きやう かい ぎ ほうこくしよ こっし かた しんちよくし だい じ かいかい ぎ ほうこくしよ と
今日の会議で報告書の骨子を固めていく。進捗次第で次回会議で報告書を取りまとめ
ることにしたい。

きやういく じやうほう か だい かいけつ じぎやう わたし おこな
教育や情報の課題を解決する事業を私たちが行う

○前回の会議で、「外国人と日本人のコミュニケーション不足」が外国人の課題の原因
なのではないかと、との投げかけに対して、委員から「コミュニケーション不足も課題の原
因ではあるが他にもあるはずで、一つに特定できるものではない」といった返答があっ
た。

○前回の会議までは「外国人と日本人のつながりをつくる」という解決策を考えてきたわ
けだが、コミュニケーション不足を解決していくよりも、教育や情報提供の課題を解決
していくことの方が委員の納得がいくのではないかと。

○これまで話し合ってきた教育や情報提供の課題に対して、この会議はその解決に役
立つことをしていきたい。具体的な取り組みが何なのか明確にして報告書にまとめて
いくため、本日はそのアイデアを出し合い、具体的な事業を話し合っていこうと思っ
ている。

○アイデアを出してから具体化するにも時間がかかる。実際には次期の会議になるの
ではないかと。

○次期の委員や誰かがやるということではなく、私たちが行う。例えば、前回出たアプリ
の立ち上げなのであれば、最初にうまく立ち上げればある程度回っていくのかもしれな
い。ある程度の方向性や具体的なものがないと引き継ぐこともできない。

○具現化すると口で言うのはかんたんだが、実際にやるのはたいへんなことだと思
う。

○過去に解決策として挙げた補習クラス立ち上げにしても私たちが関わり続けるのはたいへんなこと。しかし、外国につながる子どもたちの課題がこれだけある中、何か解決につながれることはないのか、私たちができることを考えたい。

以前の会議でも話し合った

- 以前の会議でも「○○すれば」といったテーマで話し合っている。そこでは、地域のお茶会(茶OH)やアプリ、コミュニケーションの話が出ていた。
- 地域のプログラムをつかって、外国人と日本人が集まる機会を増やしたら良いという意見があった。具体的には年に2回くらい地域でお掃除するのはどうかというもので、それをどうやって事業化していくか。その他に、書類をホチキスでとめる、IMPORTANTEのようなはんこをつくる、といった意見があった。それらを集約してコミュニケーションという解決策へたどり着いた。
- そうした話し合いを経て、外国人と日本人のつながりを意識した持ち寄り交流会を実施してみた。
- 一般の人からすると、どうやったら外国人とお話ができるのかわからない。コミュニケーションのきっかけになるものを提示してみるというと思う。
- 外国人が日本人と交流したいと思うポイントが必要だということが持ち寄り交流会を行ってみて得られた気づきなのだと思う。その辺が外国人に理解されると、うまくいくのではと思う。

お弁当をつくってみよう

- 例えば、日本以外の国ではお弁当の文化がないので、コミュニケーションの一環として一緒にお弁当をつくってみるのも悪くないと思っている。お弁当で困っている外国人もいるはずなので、困りごとの解消をしてあげることができる。
- お弁当をつくったことのある日本人と、お弁当をつくりたい外国人が対象。共通の話題があれば両者でコミュニケーションをとれる。食事作りは意外と関心がある。
- お弁当づくりのイベントをやるとしたら、どうやって外国人にお知らせしていけばいいか。
- 外国人コミュニティ、幼稚園、保育園、小学校などが考えられるのではないか。
- 国際化協会が開催した外国人のための料理教室の場合はどうか。
- 外国人の動員に関しては通訳員の力が大きい。広報やまとは日本語だから読むのはむずかしいが、多言語になっている外国語版情報紙であっても情報は届いていない。外国人コミュニティに届かないと分からないことが多いかもしれない。

- 外国人だけでなく、日本人にとっても動員はむずかしいので、やってみなければわからない。持ち寄り交流会のことなど、失敗から学ぶこともあるはず。
- 持ち寄り交流会の場合、特定の話題提供がなく、集まってお茶しよう、だけでは日本人だってもずかしいのではないだろうか。お弁当のような話題になるようなツールがあればよい。
- 設定としては、お弁当くらい具体的な話題でないといけないし、そうでないと事業を行う私たちも考えづらいのではないか。

対象とする外国人は誰か

- スマートフォンなら世界のどこでも使うことができる。あるテレビ番組では、ムスリムが東京でハラールフード(イスラム法上で食べて良いとされるもの)が食べられるレストランをアプリを使って探している様子を特集していた。その他にムスリムが集まる場所を探すとなど、いろんな用途でスマホアプリが活用できるのではないかと思った。
- 外国人のお年寄りだとスマホだけで情報を受け取ることができるのだろうか。
- スマホで入手した情報が口コミで広がっていくのではないか。
- すべての外国人を対象にするとたいへんなので、私たちの中でターゲットとなる外国人を誰にするか決めておいた方がいいのではないか。
- まずは、子どもを持つ母親を対象にしてはどうだろうか。課題を抱える外国人は他にもいると思うが。
- 高齢者である自分の両親が地域の行事に参加できないと話す外国人もいた。ただ、高齢者がどこにいるかわからないので、声かけすることもできない。
- かと言って敬老会などの地域のイベントに参加してみたら、日本の古い歌を歌わされるというのでは外国人は参加しにくい。そのためには間に入るサポーターが必要だが、そうした人材がいるのかもよくわからない。今ある組織を活用できないものだろうか。
- 自治会なら高齢者に限らず住民の名簿があるはずだがどうなのだろうか。
- 現在、自治会の役員を務めている。市の福祉部でも声かけたいようだが、日本人の高齢者ですら把握はできていないのでは。名簿があったとしても世帯単位だと、例えば世帯主が日本人で配偶者が外国人の場合、外国人が住んでいることがわからなくなってしまう。
- 最近では個人情報保護の傾向が強いので、誰がどこに住んでいるのか分かりづらくなっている。
- 何が課題になっているのだろうか。自治会に入っていないなくても、特に災害時の要援護

- 者など地域の高齢者情報は自治会で持っているのではないかと。自治会の役員が変更になるとうまく把握できなくなってしまうのかもしれない。
- 自分の自治会の人に聞いたら、地域の外国人は把握できていないと聞いた。日本人の高齢者のことさえも把握しきれていないと言っていた。
 - ただ、本人たちが、回覧を回しても自分たちは飛ばしてほしいということを言い出してしまうと、情報が途切れてしまい、いるのかどうかもわからなくなってしまう。
 - 外国人のお年寄りの場合、母語のサポートだとか日本人以上にきめ細かい対応が求められることになる。自分に声をかけてくれた人が一緒に行ってくれるのであれば、行ってみようかという気分になったり。
 - 外国人の子どもを取り巻く課題に対しても、ある程度はその子の言いたいことを聞くことのできる母語話者が必要なのではないか。
 - 課題解決ベースで話していくと実現の可能性が少なくなってしまう。

Dale ! Dale ! (ダレダレ)コクサイの活動

- 3年前、Dale ! Dale ! コクサイというグループを立ち上げた。ただ走るだけでなく、チャリティ・チャレンジ・ランを行っている。走った距離×10円を寄付するほか、一口500円を出資を募り、集まったお金を外国人がかりやすい病院を増やすという目的に使っている。これまで大和市立病院に英語の案内板を寄贈したり、小児科玉井クリニックに協力してもらって子育てに役立つ情報を3言語に翻訳して配布したりした。今年が多言語のお薬手帳作成に協力する。
- 60人ほどのメンバーがいて、月に1回は公式大会に出ている。今年目標は700kmで、目標が達成できなければ、一口500円を出資した人に全額返金する決まりになっている。メンバーの半数くらいは日本語が苦手だが、サポートしながらインターネットを使って大会にエントリーしたり、大会負担金を支払ったりして走っている。
- 出資金は年々増えてきている。このようなグループを立ち上げることはできるのだが、続けていくのはかんたんではない。しかし、メンバーの中には年に1回だけでも走ってくれる人、走らない人でもやまと国際交流フェスティバルでのバザー出展などに協力してくれる人がいて、この活動を支えてくれている。外国人、日本人はもとより、会社員、先生、医者、主婦など様々な人がこのグループに参加している。
- この活動の前提として、外国人が病院にかかりにくいという課題がまずあった。解決したい課題の解決策としてチャリティ・チャレンジ・ランというしくみを考えた。楽しいと感じることが継続性につながったりする。また、一般的に日本人は外国人の健康問題に

は興味を持ちにくい、マラソンという要素があれば少しは身近に感じてくれたりするなど、この事業が私たちが考える上でもヒントになるのではと思う。

○日本人はやらないといけないと感じるとやるが、外国人はそうではない。誰でもそうかもしれないが、楽しくて積極的に関与できるものしか続かない。走ること、500円を寄付することなどいろんな関わりが用意されているので協力しやすいのではないかと。

○お弁当に関連して言うと、外国人は日本のおせち料理にも関心を持っている。おせちは一つひとつに意味がある。そうした外国人の興味や関心に合わせてみてはどうか。

○Dale ! Dale ! コクサイのような活動は代表者のマンパワーがあるから成り立っている。この会議の中で何かを立ち上げる場合、誰がキーパーソンになれるのか。会議としてこの活動を支援することはできるのかもしれないが。

○応援でも何でもいいので、外国人にはもっと協力してほしいと思っている。若い外国人も糖尿病など生活習慣病になる人が増えており、介護予防にも運動が効果的。

○この会議では教育と情報提供の課題を取り上げたので、その課題の解決について話し合いたい。

○例えば、ストレッチ体操をやってみて、そこに集まってくる人たちに情報提供ができるのではないかと。

○ここで話すのではなく、何かやってみることで外国人の子どもや情報提供の課題に対する解決の糸口が見えてくるのではないかと。何をしても、私たちが立ち上げたり、継続性を持たせたりしていくことはたいへんなこと。

○立ち上げや継続のための負担を減らしてあげるといい。チャリティ・チャレンジ・ランの立ち上げそのものは大した負担ではなかった。ずっと声をかけ続けたいといけないわけなので継続していくことはそれなりの負担にはなっているかもしれないが。

○Dale ! Dale ! コクサイの場合、国際化協会からの支援があったわけだが、何かしら組織からの応援がないと継続していくこともむずかしいのではないかと。

情報を届けるには

○情報提供の課題はどうやったら解決できるのか。年に1回走ったからといってすぐに健康になるようなものではないが、参加すれば走ることで健康につながるきっかけができると多くの人に思ってもらえることが大事。この活動をどうやって周知するのかも課題なのではないか。例えば、Dale ! Dale ! コクサイについて、どこにターゲットを絞ればもっとこの情報が届くようになるのだろうか。

○走ることに興味がある人は Dale ! Dale ! コクサイの情報がほしいと思うはず。知りたい

- 情報は手に入れようとする。しかし、マラソンに興味がない人は情報を取ろうとしない
 わけで、情報の質によって流通が変わってしまう。
- 今でこそ 60人ほどの登録があるが、私一人が 60人に声をかけたわけではなく、メンバーがそれぞれ知り合いに声をかけて広まっていった。
- 口コミ情報は不安定で正確な情報でないかもしれないという課題はこれまでの会議でも話し合っていた。伝えたいのは行政情報のことで、学校の情報が保護者に伝わらないなど、みんなが知りたいと思っていなくても情報を届けるにはどうしたらよいか、という話をしていた。
- 一度にたくさんの外国人に情報を届けようと思っても絶対に無理だと思っている。少人数から始めていかなないと解決にはつながらない。情報の内容と対象を絞らないといけない。対象となる外国人は誰なのか。
- 今日の会議では子どもをもつ外国人や高齢者という話が出ていた。この会議では、誰に情報を届けたいか。
- 例えば、寺子屋のことを知らない保護者がいたので、学齢期の子どもを持つ保護者を対象にすることが考えられる。もし、お弁当づくり講座をやるとしたら、どれほどの外国人に届くものなのか。
- 学校によって異なるが、国際級を通じて子どもから保護者に手渡すことが考えられる。
- 国際化協会からも外国語で情報紙を作成して配布しているが、そこに外国人向けの講座情報を掲載してもなかなか参加するまでには至らない。手渡しするだけでなく、しつつ声をかけてようやく参加してくれる。チラシをばらまいただけでは参加してくれない。手渡ししても、その企画が自分のために開催されていて、自分も参加してもいいものかと思っていない。
- 外国につながる子どもは、お弁当に母国の料理があるとみんなから注目を浴びてしまうので、落ち着いて食べられないことがあるようだ。どんな講座をやる場合であれ、その講座のポイントを保護者に伝えなければ、参加につながらないだろうと思う。外国人に理解してもらうための積極的な声かけが必要になる。
- 例えば、50人を対象に声をかけることはとてもできないので、何人かを対象にした地道な作業になるかと思う。
- それは地道な作業をしてくれる人をいかに増やしていくかという話につながってくる。

べんとう お弁当づくり

- 以前運動会に持ってくるお弁当のことなどを紙に書いたお知らせを渡して、口頭でも説明したことがある。結局そこまでできないということで、お弁当を買ってきていた。
- 高校生の子どもを持つ外国人の保護者でも、毎日弁当をつくるのはたいへんなので、子どもにお金をあげて弁当を買わせる保護者もいる。
- 別に日本風のお弁当でなくても、母国料理のお弁当を持ってきてもいいはず。それを周りの子どもがいいねと思ってくれないと多文化共生とは言えなくなってしまう。日本風のお弁当しか学校に持っていけないわけではない。確かににおにぎりとういぬ、玉子焼きだったら子どもは喜ぶかもしれないが、日本への同化を促しているかもしれない。
- 「君のお弁当いいね」って言ってくれる学校の先生の反応や評価によっても違ってくるかもしれない。子どもは知らないことに対しては攻撃的、排他的になりやすい。徐々に母国のカラーを出せるようになっていけばいいかもしれない。
- 実話だが、ペルーから来たある子どもは自分のお弁当を鼻くそみたいだって周りの友達に言われたことがある。その辺は変えていかなければいけない。
- その部分でわたしたちができることとすれば、お弁当づくりで保護者の負担を減らしてあげることはないのだろうか。いろんな国の料理でお弁当の中身をつくることから始めてみても良いのでは。
- お弁当づくりは外国人の子どもを取り巻く課題を解決するのだろうか。
- お弁当レシピはすごくいいと思う。大和市の外国人ママたちのお弁当はコレです、みたいな。
- 以前、世界の料理を体験しようという給食があった。インドのカレー、タンドリーチキンというふうな。ただ、調理師の対応がむずかしくなり、それ以上は提供できないようだ。
- 過去にも外国人と日本人が協力してレシピ集をつくってみよう、という事業があったと思う。レシピがあれば、他の人もつくってくれるようになる。
- 大和市立の保育園では月に1回程度世界の料理の給食を提供している。

べんとう お弁当づくりによって私たちは何を解決したいのか

- お弁当づくりをすることで、子どもたちの学力向上に結び付くのだろうか。あるいは、外国人としての自己肯定感、多文化共生意識の涵養なのだろうか。
- 小中学校の国際級を通じた情報の伝達だけでは心もとないので、あと1つか2つくらいは情報を伝える方法があった方がいいと思う。

- 保護者が集まったときに直接説明するのが一番いいのではないかと。保護者の面談や授業参観のような日があるはず。
- 案内をただ配るだけでなく、口頭で説明するなど何通りかの情報伝達を考えておく必要があると思う。特定の人が口頭で伝えるのは限度があるので、情報が伝わりやすい仕組みがあるといいのではないかと。
- お弁当づくりは情報提供の課題ではなく、子どもを取り巻く課題の解決策として話合っているのではないかと。
- お弁当づくりは子どもと情報提供、両方の課題を解決することでもあると思う。
- 情報と言えば、何でも情報になってしまう側面がある。子どもを取り巻く課題と情報提供の課題を分けて考えた方がいいと思った。
- お弁当やおせちなど食をキーワードにしたアイデアが出てきたが、そこで解決したい課題は何なのか、見えなくなってきた。
- マラソンの場合、外国人が病院にかかりにくいという明確な課題があったが、お弁当か食べものとした場合、解決したい課題は何なのかぼやけてしまう。
- 食を通じた情報提供のあり方、などつなげることができないかと。
- 情報提供となると、あまり知りたいとは思っていない行政の情報をどうやって伝えようかという話になる。食をキーワードに人を集めて、行政の情報を伝えようとしているのか。
- 人を集めるためにどうやって情報を届けるのかに重点があるのではないかと。
- そうではなく、集まった人にどうやって情報を届けるのかだと思ふ。持ち寄り交流会にしても、開催するから来てくださいという情報をどうやって届けるかではなかった。
- 持ち寄り交流会を行ったことで情報が伝わらないことはわかったが、その時点で解決したい課題は情報提供ではなく、外国人と日本人のコミュニケーションだった。
- 食をキーワードにすると解決する課題は外国人の自己肯定感みたいな話になってしまふので、私たちが解決したい課題からズレてしまう。子どもを取り巻く課題であることは確かだが、学力の向上に結び付けるのはむずかしいのではないかと。子どもを取り巻く課題はいろいろあるが、その中でも学校の授業についていけないという課題を何とかしたいという思いが会議の当初からあったはず。
- 子どもを取り巻く課題にしてもいろいろあるので、一つにしぼった方がいいのかもしれない。情報なら情報の課題でもいい。

情報提供の課題

- 情報提供の課題にしても、行政情報なのか、生活情報なのか、しぼっていった方がわかりやすい。
- 生活情報の方が分かりやすいのではないか。ごみの出し方は生活情報なのだろうか。
- 病院、税金、学校など行政からしか受け取ることのできない情報がある。そうした行政情報はたくさんあるが、外国人に届いていない現状がある。今日話しているお弁当は生活情報にあたると思う。
- しかし、行政情報は行政が外国人に届けるべき情報なのではないか。行政情報が外国人に届いていないことについて、行政はどう考えているのだろうか。
- 多言語情報はたくさん出ているものの、外国人は知りたいとは思っていない。例えば、ごみの出し方については、決められた日にゴミを出さないことで困るのは近所の人であって、ゴミを出した本人は困っていないわけなので、ごみの出し方を知ろうとは思わない。
- それは行政上の課題であって、この会議では行政に切り込むではなく、私たちができない生活情報の課題を解決していくべきなのではないか。行政がどれくらいの意識を持っているのかわからないのに、私たちが手がけても仕方がない。
- 行政がどのように解決するかではなく、ゴミがきちんと回収できている状態を地域でどうやってつくっていくかに着目するといいかも。
- 行政がさまざまな情報を発信していることに変わりはない。行政が直接的に個別サポートしていくのはむずかしい。
- そこから外国人と日本人の間を取り持つ人が必要だということで、外国人と日本人のつながり、コミュニケーションという話に展開していった。
- 行政では個々の課題それぞれに対して直接サポートするような体制にはなっていない。例えば、災害時の要援護者の名簿を手渡すことならできるが、要援護者一人ひとり個別サポートする体制をとることはむずかしい。
- 少人数でいいので人材を育成するしかないのではないか。
- 人材を育成していくとしたら、それができる人材とは外国につながる子どもたち。残念ながら、母語にしても日本語にしても半端になってしまいがちなので、それをバックアップできればいい。
- いろいろとバックアップしていくにはお金がいるので現実的にはむずかしい。
- 今日の話をもとめてみて、お弁当づくりからスタートして、2世代を支援していくような課題解決を目指してはいけないうろなか。

- 小中学生は行事でしかお弁当をつくらないので、やはり幼稚園世代になるのでは。ただ、最近では運動会などの行事でも給食になる学校もある。
- 幼稚園だとお弁当が基本で、給食の日があったりする。保育園はほとんど給食。だとしたら、お弁当づくりに困っているお母さんはどこにいるのだろうか。
- 外国人の中には日本の料理や文化を習いたいと思っている人は多いようだ。自分子どもが日本で生まれ育っているからには食べさせたいと思っている。
- 外国人が日本料理を習うだけでなく、日本人も外国料理を習うなど、双方向であるといいのではないか。

外国につながる子どもの将来

- 先ほどの外国人の2世について、何か困っていて、提案できるようなことはないか。
- 外国人の2世に対するバイリンガル教育は周りの日本人は期待しているところがあるが、本人たちは日本人になりたいと思っているので、若干ズレがある。もちろん、外国人の2世がバイリンガルになりたいと思うことができる環境をつくっていくことが必要。
- ボランティア(無償)の仕事ではなく、市役所などでも2世を雇ってもらえるような環境にならないといけない。バイリンガルとしてのスキルを評価できるようにしてもらえるといい。
- 一部の外国人2世はそうかもしれないが、その他にも大勢の2世がいるはず。
- 2世である本人たちが困っていない状況があるので、情報提供の課題としては取り上げにくいのではないか。
- しかし、外国人はいろいろと困っている状況があるので、ここまで話し合ってきた。
- ベトナム人の場合など、自分の子どもがいじめられるといった困難に直面すると相談してくるのだが、いじめ以外は日本の場合は楽でいいと言ったりするので、そこまでの困り感がない。
- 例えば、高校の進学先なども日本人とは持っている情報が全然違うので、困るという状態になりにくい。外国人と日本人では、ストック情報が違い過ぎる。
- 情報がないことによって、高校に入学した後の将来像を想像できないのかもしれないし、ある種のあきらめもあるかもしれない。
- 大学に行きたいと誰かに聞いてみれば、何かやってくれるだろう、というくらいの気持ちなのかも。高校に行くにしても、おのずと行ける高校が決まってくるので、困り度合いが日本人とは違う。よほどの学力がないと日本人と対等に受験するのもむずかしいのが現実。

- 誰が困っているかという、外国人の周りにいる人や学校の先生ということになる。外国人の周りで困っている人を支援することになれば、また課題が違ってきてしまうのは。外国につながる子どもを取り巻く課題が出ないなら、情報提供の課題を解決するだけでもいいのではないか。
- いろいろな集まりやイベントを開く。結局つながっていれば、困ったときでも助けてくれるようになるはず。外国人と日本人のつながりとして、そうした関係をつくるということなのだろうか。
- 情報提供の観点から考えると、場、機会をつくり、そこから人間関係を構築していく。
- 場をつくることはいいのだが、この会議で何ができるのだろうか。私たち委員がラウンジのようなものを運営できるわけではない。ラウンジをつくってくださいと市に提言でもするのか。

あたら こくさいこうりゅう
新しくできる国際交流サロン

- 国際交流サロンが旧生涯学習センター北館にできることは決まっているが、入れ物があるだけで、どうやって外国人が集まる場にできるかはこれから考えていかないとけない。
- この会議ではどうやって国際交流サロンをつくるかではなく、どうやったら国際交流サロンに外国人が来てくれるようになるのかを考えるべきではないか。サロンでお弁当やおせち料理づくりを開催した場合、どうすれば来た人に情報が届くのか考えてみたい。
- 伝えたいのは行政情報だけでも、行政情報を伝えようと思って場をつくっても外国人は来ないので、お弁当など何か人を呼び込める行事をつくって、その中で行政情報を届けようとするものなのか。
- 前提としてサロンは外国人に情報を届ける場としてある。情報提供する場だとしたら、どうやって届けるのか深く考えないと情報は活きない。サロンをどう活用するのか、この会議で提案してもいいのではないか。
- そのサロンが外国人のための場所で、そこに行けば何とかなるかもしれない場所であることが外国人に浸透すればいい。他市のサロンとかもそうになっている。その場所を外国人の居場所にする。
- しかし、この会議でそうした提案をしたところで仕方がない話で、国際交流サロンを外国人の居場所にするというコンセプトはすでにある。その他、情報提供や自立するための力をつける場、日本語を学習できる場であることも決まっている。むしろこの会議

では、その場所に外国人を集めるための工夫などの話ができるといい。

- サロンに行けば自分が抱える困りごとが何とかなると思ってくれたらいいのではないかな。
今まではなかったのですが、それが広まればいい。
- 流通のしくみを新しくしようとしているのか。
- 外国人が集まる場があれば、情報が伝わりやすい。新しいサロンでお弁当やおせちといった行事を行ってそうした場をつくっていくということか。
- 今は情報提供の課題について話している。そこから場をつくれれば情報が届くという話になり、サロンのことを話していた。場をつくる場合、その段階からどうやってその場があるということを伝えるのかという問題が常に付きまとう。情報経路を2～3つつくらないといけないという話もあり、スマホアプリの活用ができないか、という話もあった。
- 国際化協会でも Facebook ページで情報を流しているものの、なかなか届いているとは言えない。なぜ見てもらえないか、見てもらえるようにするにはどうしたらいいか。
- 国際化協会のページにアクセスすることがないのではないだろうか。
- 国際化協会では、かつてメール配信をしていた時期もあったが、登録者が少なかったため Facebook に切り替えたという経緯がある。一方的に送られてくる情報は読まないのかもしれない。

多文化共生事例集を参考にして

- ここまで長い時間話し合ってきたわけだが、私たちが事業をつくっていくのはむしろかしいのだろうか。
- 教育と情報提供、2つの課題を解決したいとしてこの会議が進んできたわけで、お弁当やおせちだと2つの課題の解決につなげていくのはむしろかしい面があるのではないだろうか。
- 総務省が取りまとめた多文化共生事例集から参考になりそうな事例を4つ取り上げた。
(1)子どもたちの学習支援教室に食料(パン)を配った事例、(2)外国人と日本人が協働でガーデニングを行った事例、(3)大学などと連携して留学生や技能実習生と国際交流サロンを開催した事例、(4)多文化コンシェルジュという人材を育成した事例。考えれば、それなりに成果に結び付けることができるものと思う。
- 事業と言ってもいいし、取り組みと言ってもいいのだが、何かを行うことで少しでも課題の解決に近づけていきたい。
- この事例集にはいろんなアイデアが入っている。今日話してきたお弁当もいいアイデアなのだが、この会議で調査してきた教育や情報提供の課題解決となかなか結びつい

てこない。

- この事例集の中から具体的なものをいくつか取り上げてみたらどうか。
- 私たちは企画だけ考えればいいのか。
- アプリのようなものであれば、枠組みをつくれればある程度回っていくものかもしれないし、補習教室を立ち上げるのであれば、週1回は開催し続ける必要があるかもしれないので、事業の内容による。
- 企画や事業の立ち上げとなるとこれまで話してきた課題の話とは違ってくる。
- 課題を解決する事業を行うという意味でこれまで話してきたこととは変わらない。
- それでは、次の会議までにみんなでモデル事業となるものを考えてみよう。
- この4つの事例の中から選んでみてはどうか。
- しかし、事例集は多文化共生の啓発などを目指しているもので、私たちが何を解決したいのかによって事業の中身が変わってくる。パンの提供事業を例にとると、パンの代わりに私たちが学習支援教室に協力して子ども食堂みたいなことでもやってみようか、という話になる。

子どもたちの居場所をつくらう

- 何を解決するのか課題をある程度絞った方がいいのでは。教育なのか、情報提供なのか。いろんな意見が出てきてまとまらなくなってしまう。
- 今ある組織を活用したらいいのではないかと。国際級などで学習支援を行っていて、少しは成果が出ているのではないかと。
- しかし、この会議で子どもを取り巻く課題が出てきたのはどうしてなのか。
- 教育の課題はむずかしいのではないかとと思っている。学習支援だけでなく、息抜きのできるゆとりあるスペース、悩みを相談できる場があればいい。何だか教室にいたくないときもあるのだと思う。直接的な学習のサポートをするのではなくても、メンタル面で解決してあげると意欲がわいてきて、学力向上に結びつくものだと思う。自分を知っている人がいると思うだけでも違う。そういう時間やスペースがあれば、気持ちが落ち着いて少しは勉強のやる気が出てくる。
- それでは外国につながる子どもたちの意欲を高めることのできる居場所をつくってみよう。学校の中でなくても、新しくできるサロンにつくってみればいい。
- しかし、子どもたちにも生活のパターンがあるので、いつでもどこでも行けるわけではない。学校には相談室があるものだが、そこに配置されている先生が外国につながる子どもの事情に詳しいわけでもない。ただ、そうした場があるだけで少しは落ち着けて、

べんきょう き で
勉強にもやる気が出てくる。

○子どものメンタルの話こ はなし きを聞くにはスキルひつようが必要わたし はなし きになる。とはいえ、私たちが話を聞くとしても、素人しろと なんだと何のケアはなし きもできない。話を聞くくらいならできるけれども、悩みなや きを聞く場としては機能き のうしないのでは。そこきに来たら外国人がいこくじんに理解りかいのある大人おとながいて、何でも話を聞いてくれるとしても、いろいろな知識ちしきがあるといい。解決かいけつの道筋みちすじはどうつけてあげられるのか。

○最初は「相談さいしょ そうだんしてみれば」と国際級こくさいきゆうの先生せんせいのような人ひとから情報提供じょうほうていきようを受けるものだと思う。ただ、受け取ったカウンセラーおもはどうしたらいいのかわからない。子どもたちが悩んでなやいるのは事実じじつとしてあるのだが。

○子どもシェルターこがあるといいかも。本来ほんらいは学校がっこうの先生せんせいができればいいのかもしれないが、時間じかんもないのでなかなかできない。やはり別べつの人ひとがいてくれた方がほういい。もしやるとしたら研修けんしゅうなどを開いて人材じんざいを育成いくせいしなければいけない。

か だい かいけつ じぎょう も よ 課題を解決するための事業をみんなで持ち寄る

○場所ばしょを確保かくほするなど、それほどの手間てまだとは考えかんがなくてもいいと思う。解決かいけつしたい課題か だいだけでも見みつかるきようといい。今日けふの話はなしを無理矢理むりやりまとめると、やはり外国人がいこくじんと日本人にほんのつながりをつくるということになるのだろうか。

○国際交流サロンこくさいこうりゅうはこうあるべきだわたしという私たちの意見いけんをまとめて報告ほうこくしてみるのほうはどうか。

○サロンのコンセプトきなどは決きまっている。むしろ、サロンにあるべき事業じぎょうはこういうものなので、それを私たちがやります、という話はなしでしかない。今日けふは、お弁当べんとうやおせちというアイデアでは出てきたものの、それが何を解決かいけつするのかわ分かりづらくなっている。

○今日は一緒に料理きよう いっしょ りょうりをつくらう、という話はなしをしてきたので、事例集じれいしゅうの中には一緒になかに いっしょにお花はなを植うえよう、というものに一番いちばん近いちかと思う。ただし、一緒にいっしょにお花はなを植うえることめで目指すのは多文化共生意識たぶんかきょうせい いしきの涵養かんようや多文化共生たぶんかきょうせいのまちづくりであって、外国人がいこくじんの抱える課題か だいを直接解決ちよくせつかいけつするわけではない。

○お花を植うえようにも場所ばしょがないのではないか。

○みんなで借りて市民農園しみんのうえんをやってみるのほうはどうか。プランターでもできるかもしれない。

○しかし、花を植うえるということはこの会議かいぎと何なんの関連かんれんもない。

○花を植うえようという提案ていあんなのではなく、花を植うえてみようという実行策じっこうさくを話し合あっている。

○外国がいこくや日本にほんの料理りょうりを含めて、協働きょうどうでの料理教室りょうり きょうしつを一年いちねんくらいかけてやってみるのほうは

どうか。

- 国際交流をやっていくことは間違いではないと思う。ただし、この会議は、当初から外国人の社会参画を目指そうというもので、その趣旨とズレてきていると思う。
- 外国人が(日本の文化などを)習うということがない。あるけれども、あまり広まっていない。一方で日本人が外国文化を習う機会が多いのだと思う。
- 事業や企画を考えると、この会議とは違う気がするのだが。外国人への情報提供の課題を解決する事業はこれまでも行われているのではないだろうか。課題の解決と事業を行うことにズレがある。
- 私たちが行いたいのは情報提供の課題を解決すること。情報提供の課題を解決する事業を行う。どの事業をとっても成果をどこに置くのかはむずかしいのかもしれないが、委員のみなさんで考えたい。
- 情報提供の課題を解決する事業がそもそもないのでは。
- どの課題にしる、事業という形で動かさない限り、課題は解決しない。アイデアがいくらあっても、それを実行する誰かがいないといけない。アイデアの提案は立派なのかもしれないが、課題は解決できない。私たちのこの会議の目的は、小さなことでもいいので課題を解決することで、それは当初から変わらない。
- 次回の会議はどこから始めればいいのか。
- みなさんから事業を持ち寄ってみてはどうか。しかし、私たちが何を解決したいのかわからなくなってしまっている。私たちに何ができるのか手段を先に考えてしまっているため、課題の解決に結び付けにくくなってしまっている。解決したい課題はこれだという強い思いがあれば、手段はどのような形でもまとめられると思う。「これを何とかしたい」という希望を委員のみなさんから出してもらってはどうか。
- 解決したいのは教育なのか、情報提供なのか。事例集に示された取り組みのポイントを踏まえて、考えてみるといいのではないか。
- 情報なら情報にしぼって考えた方がいいのではないか。
- それでは、情報提供の課題解決にしぼって、課題と解決策を記入するシートを作成して、次回会議までにみなさんに提出してもらおうのでどうだろうか。
- 提供する情報は決まっていると考えていいのか。
- その情報を決めようというのだと思う。例えば、国民健康保険や予防接種の情報とか。今日は子を持つ母親を対象にした情報提供という話が出ていたので、子を持つ母親に対する学校の情報を届けるにはどうするか、などと決めてしまってもいいかもしれない。

- 行政情報が届かないという課題の原因はどこにあるのだろうか。
- 興味がないし、情報の内容に限らず、必要だと思っていない限りは情報を入手しようとは思わない。
- その状態で課題があると切り切れるのだろうか。
- 繰り返しになるが、本人が困ってなくても、周りで困っていると感じる人がいるという状態は課題だと言える。学校の先生がよくあるケースなのかもしれないが。
- 情報が届いていないことを何とかしようと思っている人はいるわけで、そういった外国人は気の毒な状態であり、何とか解決したい状態なのは間違いない。
- 前回の会議ではがん検診の話をしていて、そもそもがん検診があること自体、外国人は知らないで、無理矢理食事に誘ってまで、そのがん検診のことを伝えているという話があった。
- 情報提供の課題を解決する事業の枠組みについて、いくつか対象となる課題を絞った上で次回の会議で話し合う。

2 その他

次回は1月13日(土)14:00～同じ市役所分庁舎2階会議室で会議を行う。

以上